

# ATTAC 京都 ODA 部会 03 年度総括案と 04 年度方針案

文責 末岡友行

## < 総括 >

ODA 部会は日本の ODA (政府開発援助) 312 億円の融資によってインドネシア・スマトラ島中部に建設されたコトパンジャン・ダムによって移住させられた住民 8396 人が日本政府、援助機関である JICA、JBIC、プロジェクト開発、設計管理を行なった東電設計の 4 社を相手取ってダムの撤去や損害賠償などを求めて東京地裁に提訴した、コトパンジャン・ダム裁判への支援活動を中心に 03 年度は取り組みを行ってきた。

ATTAC 京都の ODA 部会として、コトパンサポーターズ京都 (コト 古都) 結成を支援し、中心メンバーとしてコト 古都の毎月行なわれる東京地裁での裁判傍聴行動、公正判決署名集め、ODA やコトパンジャン・ダム問題についての学習会や宣伝などの活動を積極的に行ってきた。また裁判の現地原告を招いた集会を ATTAC のメンバーの協力のもと 7 月、11 月、3 月の 3 回行なうことで、京都においてなじみが薄かったコトパンジャン裁判の意義や現在の ODA の様々な問題点を広げるのに一定貢献できたのではないかと。

その一方で ATTAC 京都内では主なものとして 1 月例会において ODA 学習会をおこなうだけで、ODA 部会として ATTAC 京都のメンバーに対して活動のフィードバックするのが不足したのが反省される。

また ODA に関わる様々な NGO とネットワークや連携を作る努力を行なったが不十分であり課題として残った。

## < 方針 >

従来の活動であるコトパンジャン・ダム裁判の傍聴行動や、学習会などによる裁判の意義を広げる活動をコト 古都と連携して継続するとともに、今行なわれようとしている日本政府の軍事大国化と新自由主義的グローバリゼーションへの統合と密接に関わりながら変化している、ODA の戦略援助化や、「平和構築」への ODA の活用、巨大開発プロジェクトへの融資などの ODA 政策一般に対する反対運動や、宣伝活動をより強化して行っていく。

またトービン税部会と協力しながら、問題を抱える ODA に変わる新たな国際的資金移転システムの確立や債務問題の解決のために、トービン税の意義を積極的に広めるよう努力する。